

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備(保育所等)						掲載ページ
							173
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		0千円	0千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	児童福祉法に基づく児童福祉の専門的行政機関として、相談、指導、心理・障害判定、一時保護などの業務を行っており、児童虐待、非行、不登校などの様々な課題を抱える子どもや保護者に対応するため、カウンセリングやケースワーク、関係機関との調整、連携により適切な支援を行います。		活動実績	下記活動指標の実績以外にも活動実績がある場合は、記入してください。ない場合は「活動結果は下記のとおりです。」など記入してください。		
活動計画	子どもや保護者などの相談者に適切な支援等を行うため、各種取組みを着実に進めていきます。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	児童相談受付件数	4,628 件	単年度目標設定なし	5,895 件	-	%	大変順調
	児童に関するあらゆる相談を受け付けた件数であり、児童福祉に関する専門的行政機関としての活動を最も端的に示すデータであることから指標に掲げました。 (最終目標と最終年度)						
	(最終目標と最終年度)						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童相談受付件数は、前年度並みに推移しており、相談者のニーズに適切に対応していると考えます。また、相談者には適時的確に支援を行っていることから今後とも推進を図ります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	運営に係るコストについては、最小の経費で最大の効果を挙げるという組織管理の基本的理念に基づき、計画的かつ効率的な予算執行に努めてまいります。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
児童相談所(子ども総合センター)は、児童福祉法で政令指定都市に設置が義務付けられた行政機関であり、児童福祉の専門的機関として、児童を取り巻く多種多様な課題等に対し、迅速かつ適切に取組むことが必要です。今後とも、次代を担う子どもの健やかな育成のため、関係機関等との連携を密に図りながら、より効率的、効果的な事業運営に努めてまいります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備(保育所等)						掲載ページ
							173
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,954 千円	3,027 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所や幼稚園、知的通園施設、入所施設、特別支援学校等で市民が気軽に相談できるような体制を整えるため、障害児療育専門機関による職員への技術的支援を行います。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	今年度も社会福祉法人に委託し、保育所等へ障害児療育の専門職員を派遣します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	施設一般指導事業実施件数	151 件	維持	161 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)				大変順調		
					順調		
	(最終目標と最終年度)				やや遅れ		
					遅れ		
					順調		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関わる保育所や学校などからのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することが出来ました。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
平成25年度から26年度にかけて、障害児支援として児童発達支援センターによる「保育所等訪問支援」事業が順次実施される見込みです。「保育所等訪問」支援事業は主に障害児を対象とする予定ですが、障害かどうかははっきりしない児童などへの支援など、専門スタッフの派遣ニーズは高く、引き続き新事業の導入をみながら実施していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	発達障害者支援センターの充実						掲載ページ
							178
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		9,336 千円	9,616 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	発達障害者支援センター西部分所を設置し、本市西部地区の発達障害のある人に対する支援の充実を図るとともに相談支援体制の強化を図ります。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	発達障害者支援センター西部分所において、主に本市西部地区の発達障害児・者及びその保護者を対象に、相談支援等を行います。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	発達障害者支援センター西部分所の相談支援件数	491 件	増加	486 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	「相談支援件数」の増加が、利用者の悩みや不安の解消につながり、ひいては、相談支援体制の強化の判断基準となるため、成果指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)				大変順調	
					順調	
	(最終目標と最終年度)				やや遅れ	
					遅れ	
					順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	前年度実績から「相談支援件数」は微減となりました。しかし、本事業は、本市西部地区の発達障害者の相談支援機関として中核を担っており、相談支援体制の強化を図る上で、重要な役割を果たしています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は、発達障害に関して専門的知識を持った事業者に委託しており、経済性及び効率性に配慮した事業展開を図っています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
本市西部地区の発達障害者に対する支援体制の整備を着実に推進するために、今後も継続して実施します。今後とも、積極的な広報活動により利用者の増加に務めるとともに、支援の充実を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	ショートステイ事業						掲載ページ
							178
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		210,528 千円	226,261 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	介護者の病気や冠婚葬祭などにより、一時的に介護等支援が受けられなくなった在宅の障害児(者)を、短期間、施設で預かり(宿泊型・日帰り型)必要な介護等を行います。今後、その充実を図り、重度の障害のある子どもの受け入れを含め、支援を強化します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	短期入所事業については、法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施を継続します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	短期入所の月延利用人数	74 人/月	274 人/月	317 人/月	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	短期入所は、保護者の身体的・精神的負担の軽減を図るためのレスパイト(一時的休息)としても必要であり、利用状況を把握していくことが重要と考えています。 (最終目標と最終年度)平成26年度 318人/月			115.7 %			
	日中一時支援事業(日帰りショート)の利用者数	176 人/月	176 人/月	183 人/月	順調 やや遅れ	順調	
当該事業における利用者数の増加は、障害者(児)の日中における活動の場の確保及び介護負担の軽減につながります。 (最終目標と最終年度)平成26年度 182人/月	104.0 %						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	保護者の身体的、精神的負担の軽減を図るために不可欠な支援であると考えており、利用者数等も着実に増加しています。今後も、サービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等に努めるとともに、利用者への適切なサービス利用の決定を行っていきます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	短期入所については、障害者総合支援法に基づく法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。日帰りショートについても、同法に基づく地域生活支援事業であり、適切な支援が行われるよう障害者(児)に対してのノウハウを有する事業者へ委託をしています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
保護者のレスパイトや就労支援の充実に必要な支援であり、今後も継続して事業を行います。 短期入所については、法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施していきます。 また、平成25年度4月より、障害福祉サービスの対象者に難病患者等が追加になったことから、今後も利用者が必要とするサービスが適切に受けられるよう、適切なサービス利用の決定や、サービス提供事業者への助言・指導を行います。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別支援学校のセンター的機能の整備						掲載ページ
							174
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		4,681 千円	7,881 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	特別な支援が必要な幼児児童生徒の様々な課題解決のため、拠点となる特別支援学校のセンター的機能を活用して、他の特別支援学校や関係機関と連携しながら、地域の小・中学校等への助言援助を行います。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動計画	特別支援教育相談センターと連携し、障害のある児童生徒や保護者への効果的な助言援助を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	保育所・幼稚園・小中学校等への助言援助	189 校 園	200 校 園	167 校 園 83.5 %	大変順調		
	特別支援教育相談センターと連携し、効果的な助言援助を行います。 （最終目標と最終年度）25年度 201校園					0 校	3 校
	特別支援相談室の設置 特別支援相談室を設置することで、地域の小・中学校等の相談支援体制が充実します。 （最終目標と最終年度）	順調					

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市内の園、小・中学校の約6割が特別支援学校のセンター的機能を活用しています。特別支援学校がセンター的機能として相談機能を行っていますが、特別支援学校の児童生徒数が増加傾向にあり、教室数の不足が続いているため特別支援学校内の特別支援相談室の設置計画が滞っている状況にあります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現在文部科学省の推進事業の中で行っていますが、今後も幼、小、中・高校等では必要度が高いことが予測されるため、費用対効果は高いといえます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
特別支援学校のセンター的機能の中核となる特別支援学校コーディネーターを育成します。特別な教育的支援を必要とする就学前幼児の小中学校への円滑な移行支援を、小中学校が主体的に行うことを目指します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	子ども総合センターの運営						掲載ページ
							90
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		95,208 千円	94,054 千円	施策名	子育ての悩みや不安への対応	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	児童福祉法に基づく児童福祉の専門的行政機関として、相談、指導、心理・障害判定、一時保護などの業務を行っており、児童虐待、非行、不登校などの様々な課題を抱える子どもや保護者に対応するため、カウンセリングやケースワーク、関係機関との調整、連携により適切な支援を行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	子どもや保護者などの相談者に適切な支援等を行うため、各種取組みを着実に進めていきます。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	児童相談受付件数	4,628 件	単年度目標 設定なし	5,895 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	児童に関するあらゆる相談を受け付けた件数であり、児童福祉に関する専門的行政機関としての活動を最も端的に示すデータであることから指標に掲げました。 (最終目標と最終年度)			- %			順調
					やや遅れ	順調	
(最終目標と最終年度)			%	遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童相談受付件数は、前年度並みに推移しており、相談者のニーズに適切に対応していると考えます。また、相談者には適時的確に支援を行っていることから今後とも推進を図ります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	運営に係るコストについては、最小の経費で最大の効果を挙げるという組織管理の基本的理念に基づき、計画的かつ効率的な予算執行に努めてまいります。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
児童相談所(子ども総合センター)は、児童福祉法で政令指定都市に設置が義務付けられた行政機関であり、児童福祉の専門的機関として、児童を取り巻く多種多様な課題等に対し、迅速かつ適切に取組むことが必要です。今後とも、次代を担う子どもの健やかな育成のため、関係機関等との連携を密に図りながら、より効率的、効果的な事業運営に努めてまいります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	北九州障害者しごとサポートセンターの充実						掲載ページ
							179
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		28,032 千円	29,023 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 障害のある子どもたちが地域でいきいきと自立した生活を送れるよう、「社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会」に運営委託している障害者しごとサポートセンターを拠点として、学校等の教育機関やハローワーク等の関係機関との連携を強化するとともに、きめ細やかな就労支援を行い、就職を促進します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	障害者しごとサポートセンターを拠点に、本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓、企業の意識啓発に努めます。また、就労移行支援事業所等が実施する就労支援に対する効果的な支援に取り組みます。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	障害者しごとサポートセンターの新規登録者数(20歳以下)	13人	増加	21人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	「登録者数」の増加が、利用者のニーズに応える就労相談及び支援の拠点としての評価基準となることから、成果指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)設定なし			%			
	障害者しごとサポートセンター利用者の就職件数(20歳以下)	27人	増加	25人	順調 やや遅れ	順調	
「就職件数」の増加が、就労支援の評価基準となることから、成果指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)設定なし	%						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	障害者しごとサポートセンターにおいて、指導や助言、職業訓練や職場実習の調整・あっせん、能力や適性に応じた職業紹介の調整、就労企業の開拓などにより就職を促進するとともに、職場定着支援を強化するため職場適応援助者(ジョブコーチ)、就業支援カウンセラーの配置、雇用アドバイザーの設置などにより、就職件数は、前年度と同水準の25件の就労を実現しています。障害のある子どもの就職支援を行うとともに、企業において障害者雇用の理解が深まるように推進する事業は、「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に委託して実施し、障害者の経済的自立の促進を通じて、施策の実現に対し充分効果が得られており、極めて有効性が高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	当センターの運営は、同様の機関である「北九州障害者就業・生活支援センター」を国・県から受託している「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に委託しており、2つのセンターが合同で活動することで高い効率性を得ています。また、関係機関(労働局・ハローワークなど)と密に連携を図り、効果的・経済的な取組みに努めています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
障害者しごとサポートセンターでは事業目標を上回るペースで就職実績が上がっていますが、厳しい経済情勢の中、関係機関との連携のもと、さらなる取組みの充実を図る必要があります。また、増加しつつある精神障害や発達障害のある就職困難者への対応の強化について、検討していく必要があります。本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓、企業の意識啓発に努めます。また、増加しつつある精神障害や発達障害のある子どもたちへの支援の強化を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	北九州市障害者自立支援協議会の運営						掲載ページ
							179
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		6,520 千円	5,801 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保健・医療・福祉・教育・雇用の関係機関によるネットワークを構築し、機関相互の連携を図ることで障害児(者)の地域生活を支援します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	地域の関係機関によるネットワークの構築や、解決が困難な事例への対応のあり方等に関して、関係機関が相互に連携し、協議を進めるための場を構築します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	定例支援会議の開催回数	36回	維持	24回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	関係団体の連携・ネットワークの強化を図る判断基準として、「定例支援会議の開催回数」を活動指標に掲げました。 (最終目標と最終年度)			%		
					順調	順調
(最終目標と最終年度)				やや遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	定例支援会議開催により、順調な関係機関の連携の連携強化がなされています。市内の障害福祉関係機関の情報交換、意見・提案の場として有効に機能し、市内の障害福祉の発展に効果があります。(平成24年10月より、市内3地区に分かれて毎月実施していた定例支援会議について、情報の共有化を図るため統合し、市内1箇所です毎月実施する方法に改めました)
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	協議会参加団体間の連携、ネットワーク形成のために効率的です。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
障害当事者や時代のニーズにあった形で協議会全体のフレームを見直し、より障害児(者)を取り巻く問題の解決につながる協議ができるようにします。協議会全体のフレームの見直しに伴う、各部会の新たな活動を検討して行きます。



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	高齢者・障害者相談コーナーの運営(旧:保健福祉相談コーナーの運営)						掲載ページ
							90
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	保健福祉局
		317 千円	0 千円	施策名	子育ての悩みや不安への対応	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	高齢者・障害者相談コーナーは、障害者や高齢者の状況に応じた総合的なサービス提供が行われるように、健康づくりから介護サービスまであらゆる相談を受け付ける窓口です。これまでも相談体制の確立を図ってきましたが、今後、高齢者・障害者相談係長会議を定期的開催することや各区の保健福祉相談業務に従事する職員を研修に派遣する等により、さらなるレベルアップを図り、障害者や高齢者に対し総合的な相談支援を行うことが出来るように体制作りの強化を図ります。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。
活動計画	高齢者・障害者相談係長会議を2ヶ月に1回、年6回開催します。各区の保健福祉相談業務に従事する職員の研修派遣を1区1人 計7人派遣し、職員の資質の向上に努めます。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	高齢者・障害者相談コーナー相談件数	130,682 件	増加	145,940 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	相談件数は、障害者又はその家族が各区高齢者・障害者相談コーナーに求めるニーズを把握する指標となるものです。今後とも、係長会議の定期的開催や職員の研修派遣等を通じ職員の資質の向上に努め、市民サービスの推進を図ります。 (最終目標と最終年度)			%	
	(最終目標と最終年度)			%	順調 やや遅れ

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	高齢者・障害者相談コーナー相談件数は、前年度実績に比べて伸びており、職員の資質向上が図られ、限られた人数と時間でより多くの障害者等の相談に対応できたもので、「活動の状況」は順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	障害者の相談は、近年、複雑化してきており、それに対応するためには窓口職員の資質向上は不可欠です。本事業で継続的に窓口職員の資質向上を図ることにより、限られた人数と時間で総合的な相談支援を可能としています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
今後とも、高齢者・障害者相談係長会議を定期的開催するとともに、各区の相談業務に従事する職員を研修に派遣する等、更なるレベルアップを図り、障害者や高齢者に対し総合的な相談支援を行うことが出来るように体制の強化を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	ホームヘルプサービス事業						掲載ページ
							179
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		1,805,360 千円	1,652,556 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(以下、「障害者総合支援法」)に基づく「障害福祉サービス」の一つで、ホームヘルパーの派遣を希望する在宅の障害児(者)に対し、支給時間数(利用できる時間数)を決定し、これに基づき、障害児(者)は事業者から身体介護や家事援助等のサービス提供を受けます。そのサービスに要した費用を市が負担します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	法定給付のため、法制度の仕組み等により給付等事業を行います。なお、国において制度改革等の動きがあることから、国の動向を見ながら事業を継続します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	訪問系サービスの月利用時間数	35,337 時間	36,863 時間	40,379 時間	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	訪問系サービス(居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護)の月延利用時間数の実績です。居宅介護事業等は、障害者が地域等で安定的な生活を営むために必要なサービスであることから、利用状況を把握していくことが重要と考えています。 (最終目標と最終年度)平成26年度 41,051時間/月			109.5 %			順調
					やや遅れ	大変順調	
(最終目標と最終年度)				遅れ			

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  障害児(者)への必要なサービスは順調に提供されています。今後も、サービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等に努めるとともに、利用者への適切なサービス利用の決定を行っていきます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<p>障害児(者)が住み慣れた自宅等地域で生活していく上で不可欠な支援であるため、今後も継続して事業を行います。法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施していきます。</p> <p>また、平成25年度4月より、障害福祉サービスの対象者に難病患者等が追加になったことから、今後も利用者が必要とするサービスが適切に受けられるよう、適切なサービス利用の決定やサービス提供事業者への助言・指導を行います。</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	障害児の長期休暇対策						掲載ページ
							179
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		1,407 千円	1,252 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害のある子ども本人の健全な育成と家族の介護負担軽減を図るため、障害のある子どもの長期休暇の過ごし方について、活動の場・各種のプログラムを提供します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	平成18年同事業の開始から5年が経過し、障害のある子どものニーズも徐々に変化してきているため、より実態に即した弾力的な運用ができるよう、実施要綱を改正するなどの工夫を行います。また、前年に好評であった合同企画を引き続き実施します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	プログラム参加者数	295 人	増加	358 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動を参考にして、活動の状況をチェック	
	各種プログラムに参加する児童数が増加することで、障害児の家族の負担軽減につながります。 (最終目標と最終年度)設定なし			%			
	(最終目標と最終年度)設定なし					大変順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	障害福祉サービスのひとつである日中一時支援事業が普及したことにより障害児が過ごせる場所の選択肢は増加しつつあるが、当該事業は、障害児が安全かつ安心して過ごせる場所と機会を確保するだけでなく、様々な活動内容の中で普段関わることの少ないボランティアと関わることで、障害児自身がリフレッシュし成長していける機会でもある。今回は、前年度より多くの障害児が参加したこと、実施後の保護者アンケートでは「子どもが楽しんでいた」、「満足している」、「今後も必要」と考えている保護者が多くいたことなどから障害児にとって重要な活動の場となっていると評価します。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」、「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	プログラム実施の際、ボランティアを派遣する等、可能な限り経費の削減を行っており、経済的・効率的な運営を行っております。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
事業目的達成に向けて、多くの障害児が当該事業のプログラムに参加できるように広報活動を積極的に行うとともに、魅力あるプログラムを作成します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	北九州市障害者基幹相談支援センターの運営(旧:北九州市障害者地域生活支援センター)						掲載ページ
							174
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		118,818 千円	122,194 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者相談支援事業を実施する「北九州市障害者地域生活支援センター」(ウェルとばたに設置)(平成24年10月1日からは「障害者基幹相談支援センター」以下同じ。)運営を北九州市障害者相談支援事業協会に委託して、障害者及びその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のための必要な援助を行うことにより、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになります。					
活動計画	障害者基幹相談支援センターを設置し、よろず相談窓口として家庭訪問を含む相談支援を行うとともに、併せて障害者虐待防止センターの機能を持たせて、虐待に関する通報の受理や養護者への指導、啓発などを行います。						活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	障害者地域生活支援センターの相談件数	15,294 件	増加	21,112 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害児(者)が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになるため、障害者地域生活支援センターが障害児(者)やその家族等からの相談に応じ、必要な支援を行います。 (最終目標と最終年度)平成29年度 43,669件						
	障害者地域生活支援センターの設置数	1 箇所	1 箇所	1 箇所	順調 やや遅れ	順調	
障害児(者)が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになるため、障害者地域生活支援センターが各区役所窓口との連携を強化し、身体・知的・精神の各障害に対応した適切な相談体制を整備する必要があります。 (最終目標と最終年度)			100.0 %	遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	広報活動の促進や、各種研修会を開催することで「障害者基幹相談支援センター」の知名度を上げることができ、相談件数は前年度より大きく増加しました。これにより多くの障害者及び家族等の悩みなどに対応することができたと推測されますので、成果の状況は順調と判断しました。本事業は、障害者が日常生活を安心して送り、地域で暮らしていくために必要不可欠の事業です。 (相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、より効率的な相談支援体制の構築を図るため、平成24年10月1日より「障害者基幹相談支援センター」として再整備実施)
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	障害児(者)及びその家族に対する相談支援は、基本的には職員が直接行うものですが、業務の簡素化を図るため、専門家のいる障害者相談支援事業協会に委託し、迅速な問題解決を図っています。しかし、障害者等からの相談内容が専門化・複雑化する傾向があるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
平成24年10月1日に「北九州市障害者基幹相談支援センター」を設置し、相談窓口の一元化を図りました。平成25年度以降も引き続き、出前相談など丁寧な相談支援方法をとることにより、障害のある人が自立した日常生活や社会生活を営むことができるようになります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	機能回復訓練事業						掲載ページ
							179
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		707 千円	407 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	言語聴覚障害児の障害を軽減し、在宅生活を支え、自立と社会参加を促進するため、言語聴覚訓練・社会参加適応訓練・専門的な情報の提供等のコミュニケーション支援を行うとともに、重度障害児等のコミュニケーション障害に対して、機器の相談や適合等の支援を行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	個別訓練・集団訓練(言語発達・構音・吃音・言語療育キャンプ)の実施。 吃音に関する事業(両親教室・講演会・親子のつどい)の実施。 コミュニケーション技術支援(親子ふれあい教室)の実施。 言語聴覚障害児に対する福祉機器の適合支援の実施。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	訓練内容の一層の充実を図る					活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	個別かつ多様な障害の状態に応じるためには、よりきめ細かな支援が行えるよう、訓練内容の一層の充実を図る必要があるため。 (最終目標と最終年度)				大変順調		
	(最終目標と最終年度)				順調	順調	
				やや遅れ			
				遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	年間延・約2,100人の児童に対し言語訓練を実施しています。また、家族や保育所・学校などからの専門相談に対応し、家庭や学校等でも行える訓練を教示するなど効果的な支援を行っています。 個別訓練・集団訓練(言語発達 延865人 構音 延801人 吃音 延405人 言語療育キャンプ 1回:33人) 吃音に関する事業(両親教室 2回:延10人 講演会 1回:60人 親子のつどい1回:40人) コミュニケーション技術支援(親子ふれあい教室 12回:延62組) 言語聴覚障害児に対する福祉機器の適合支援
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	言語聴覚士2名体制で実施していますが、訓練件数等の多さや事故防止等の安全面の観点から、複数体制でなければ実施は困難です。また、専門職である言語聴覚士(国家資格)でなければ言語相談や訓練に対応できず、他職種職員による兼務は不可能です。当言語聴覚士は、通常業務として成人の障害者に対する言語訓練等や、更生相談所としての聴覚障害者の補装具交付判定業務における聴力検査・装用指導等を担っています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
個別かつ多様な障害の状態に応じ、よりきめ細かな支援が行えるよう、訓練内容の一層の充実を図っていきます。 個別訓練・集団訓練(言語発達・構音・吃音・言語療育キャンプ)の実施。 吃音に関する事業(両親教室・講演会・親子のつどい)の実施。 コミュニケーション技術支援(親子ふれあい教室)の実施。 言語聴覚障害児に対する福祉機器の適合支援の実施。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別支援教育相談センターにおける相談事業						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		25,384	千円	36,301	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	北九州市における特別支援教育の充実を目指し、保護者や学校の相談に応じるため、併設の北九州市立総合療育センターや関係機関等との緊密な連携のもと、巡回相談・教育相談・就学相談・通級相談の各事業を行います。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	巡回相談や教育相談では、専門相談員や専門家チーム(総合療育センター医療スタッフと特別支援教育相談センターのスタッフで構成)が、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例の相談において専門的なアセスメントを助言し、効果的な相談を行います。								
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】		
	巡回相談(専門相談員が行った相談回数)		-	人	50	人	68	人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	巡回相談に申し込みのあった事例の実態に合わせて専門相談員を同伴し、多面的に実態把握を行い、専門性に裏付けられたアセスメントができるようにします。 (最終目標と最終年度)								
	巡回相談・教育相談(専門家チームが学校を訪問した実数)		6	校	6	校	7	校	大変順調
巡回相談や教育相談において、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例の中でも、医療スタッフの専門的なアセスメントが必要な事例は専門家チームを派遣し、効果的な相談を行います。 (最終目標と最終年度)		116.7 %							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	就学相談は、自閉症・情緒障害特別支援学級への申し込み数の増加に対応するために、医師の診察回数を増やしました。通級相談の申し込み数の増加には、相談日を増やすことで対応しました。システムを改善したことで就学相談や通級相談の増加した申し込みへの対応がスムーズにできました。 専門相談員や専門家チームを活用することで、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例の相談においても専門的なアセスメントを助言することができ、保護者・学校・園にとって手厚い支援ができています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	各相談業務とも相談件数及び、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例が増加しています。費用対効果は高いと言えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
早期支援コーディネーターを配置し、関係機関と連携して就学に向けた幼児期からの教育相談・支援の充実に向けた取組をします。個別の教育支援計画等を活用するなどして、就学前の保育所・幼稚園から指導や支援の継続を図る取組を進めます。特別支援学校のセンターの機能との連携を密にして効果的な相談支援の在り方を具体化します。言語聴覚士など専門家を配置することで複雑化・多様化にも対応できるように進めます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別支援教育を行う場の整備						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		380,843	千円	650,324	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、特別支援教育を行う場の整備を行います。				活動実績	特別支援学級の設置校が114校に増え、地域に根ざした特別支援教育の推進が図られました。 東部地域における新設校の基本計画を策定しました。	
活動計画	特別支援学級の設置校は25年度までに120校、通級指導教室は全区に設置することを目標としています。 東部地域における新設特別支援学校の基本計画を策定します。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】		
	特別支援学級の設置校数			114 校		大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	特別支援学級設置校数を73校から120校に増すことを目指します。 （最終目標と最終年度）25年度 120校	107 校	110 校	103.6 %				
	通級指導教室の設置区			7 区		順調	大変順調	
通級指導教室を全区に設置することを目指します。 （最終目標と最終年度）	6 区	7 区	100.0 %		やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度に特別支援学級の設置校数は、107校にであったのに対し、平成24年度は、114校に設置することができています。達成度は、100%を超えました。 スクールバスの運行委託について、平成23年度の入札(2校6台)結果を踏まえ、平成24年度は、相乗り解消等の課題の解決を図りました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市民の特別支援学級の新設に対するニーズは高く、費用対効果が高いといえます。 市交通局に特命で委託していたスクールバスの運行について、入札を実施したことにより、競争性、効率性が図られました。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
平成25年度は、小・中あわせて21校に特別支援学級を新設することができました。今後も必要に応じて新設を行う予定です。特別支援教育の場の整備を行うことで、多様な学びの場の整備が図れます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別支援教育を推進する人の配置						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		122,431	千円	159,527	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	障害のある児童生徒に対する多様な学びの場での適切な指導や必要な支援の充実を図るため、特別支援教育支援員の配置や外部人材の積極的な活用をしています。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	特別支援教育を推進する人の配置に関しては、緊急度の高い状況が続くことが予測されます。特別支援学級補助（市費講師）の配置を検討するなど、引き続き人の配置を継続して行います。（市が直接実施）						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】
	特別支援教育補助講師の配置校数		49 校	33 校	48 校	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	通常の学級及び特別支援学級等における特別支援教育の充実を目指すため、学校の実情に応じて継続して特別支援教育補助講師の配置を行います。 （最終目標と最終年度）				145.5 %		
	特別支援教育介助員の配置校数		13 校	19 校	19 校	順調 やや遅れ	大変順調
通常の学級に肢体不自由の児童生徒が在籍する小・中学校に対して、特別支援教育介助員を配置し、学習面や生活面での介助を行います。 （最終目標と最終年度）		100.0 %			遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童生徒数がおおむね5人以上で必要な自閉症・情緒障害特別支援学級に対し、特別支援学級補助講師を配置することができました。また、特別支援介助員も必要に応じて、配置ができており、24年度は、19名の配置ができ、23年度より6名増の配置ができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	学校・園からの緊急度が高く費用対効果は大変高いものがあります。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
今後も引き続き、幼、小、中学校の特別支援教育の推進のため必要に応じて人の配置を適切に行い、特別支援教育の充実を図ります。



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別支援教育の理解啓発						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		2,927	千円	3,529	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保護者や市民、関係機関等に、障害のある子どもたちや特別支援教育について理解が深まるようにします。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	今後とも内容を精査し積極的に市民への理解・啓発を行います。(市が直接実施)						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	公開講座参加人数		179 人	180 人	199 人 110.6 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	幼稚園・保育所・小学校の教職員向けの公開講座を開催し、障害のある子どもの小学校へのスムーズな移行を目指します。 (最終目標と最終年度)						
	理解啓発資料刊行数		4 刊行	4 刊行	4 刊行 100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ	順調
保護者向けのリーフレット「通常学級における特別支援教育」等、特に市民・保護者への理解啓発の充実に努めます。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	24年度は理解啓発資料を4種類刊行するとともに活用を機会あるごとに周知しました。また、HPを適切に更新してニーズに応えるようにしました。公開講座では、199人が参加しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ニーズに対応できる発刊物を作成し、さらに周知する必要があり、費用対効果は高いと思います。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
ホームページで刊行物の閲覧ができるように工夫します。また、定期的に更新を図ります。今後も引き続き積極的に市民や保護者への情報を発信していきます。